

釣れた〜!! 強風下にちびっ子の歓声

二千座 二楽市 楽座

「建設組合近畿大会杯・つり大会」

8月25日・和歌山マリナーシティ海釣り公園

「建設組合近畿大会杯・つり大会」(主催/建設組合大阪・奈良・和歌山)

山、後援/スポーツニッポン新聞社、特別協賛/オーナーが台風20号通過直後の8月25日、和歌山マリナーシティ海釣り公園(和歌山市毛見)を貸し切って開かれ、家族や仕事仲間129人の歓声が響いた。(平井 忠)

開催危ぶまれるも

23日夜から翌未明に西日本を縦断した台風20号。湾内とはいえ強い風が残る開催が危ぶまれたが25日午前6時、予定通り釣り公園ゲートが開門し数組の参

- △建設組合賞IIアジ、サバ、イワシ、ウリボウの総重量▽優勝 西浦梨桜(阪南市、9歳) 3900g 2位 西田琳(枚方市、7歳) 3160g 3位 豊原明歩(大阪市、10歳) 520g
- △スポーツニッポン新聞社賞IIグレ、ガシラの部1尾長寸▽優勝 勝田弘達(大阪市、48歳) グレ18・5g 2位 伊東拓馬(五條市、10歳) ガシラ16g 3位 鈴木美依菜(富田林市、14歳) ガシラ15・5g
- △オーナーばり賞IIキス、ヒラメ、スズキ、ツバスの部1尾長寸▽優勝 北野暖奈(大阪市、10歳) キス22g 2位 東大樹(和歌山県海草郡、4歳) キス19g 3位 来原弘通(和泉市、52歳) キス16・2g
- △特別賞▽西田遼(摂津市・8歳)、川根烈伯(大阪市・53歳)、峠英樹(堺市・40歳)、他12名(敬称略)



強い向かい風の中、釣り方を工夫しながら家族で楽しむ。8月25日、和歌山マリナーシティ海釣り公園に129人が集合

①西浦梨桜さん(左から3人目)は「建設組合賞」優勝。左から2人目は2位の西田琳一さん(左端、姉の雛乃さん)、右端が3位の豊原明歩さん(右から2人目、妹の由菜さん)

②多彩な他魚のほか、グレ18・5gで「スポーツニッポン新聞社賞」優勝の勝田弘達さん(左から2人目、

右隣は妻の尚代さん)と、ガシラ16gを釣り上げ2位に入った伊東拓馬さん(左端)、3位の鈴木美依菜さん(右端)もガシラで入賞(右から2人目、浅野大真さん)

③キスの最長寸22gで「オーナーばり賞」を受賞した北野暖奈さん(右から2人目)と、2位の東大樹さん(左端、左から2人目は弟の穂高さん)、右端は3位の来原弘通さん

4・5gのガイドザオで真下に下ろしたサビキ仕掛けはもちろん飛ばしサビキ仕掛けに変更し10・15g沖に投げ込んでも風に吹き寄せられ、護岸底の際に盛られた敷石にオモリやハリが引っかかってしまう。まめに仕掛けの投入を繰り返すと午前7時ごろまでイワシの15・18gがポチポチ釣れ、足元付近で手のひらのチヌの他方ワギ、ガシラ、アイゴ、サンパウがまじり、重量の部で最近の主役だったウリボウ(イサギの幼魚)やスズメダイが極端に少ない。

加者が入場する。青空ほのぞくものの南からの風は強く柵のない南東向きのテラス護岸は立入禁止、入場ゲートから入って右手、西に500gほど伸びる柵付き護岸だけが会場となる。釣り座が南向きになるため風が正面から吹きつけ、釣りにくそう

防波堤最西端が吉

波止に簡易テントや折り畳み椅子が例年通り並び、酷暑対策で5歳前後の兄弟2人の後頭部にペットボトルから冷えた水をかけるお母さんの姿も。バケツに入った小魚やヒトデを触って歓声を上げる様子や乳児をオンブしながらサオを上下させる若いお母さんの姿も見られ、屋外で遊ぶ様子は昔も今も変わらないとほっとする。

もちろんファミリーの釣りでお父さんの役割は重要。特に朝の時合いをどう過ごすかはお父さんのウデの見せどころで、家族分の仕掛けの準備に始まり仕掛けが絡めばほどこき、エサ付けも期待される。子供たちや女子を飽きさせない工夫と細やかな努力で頼れる釣りオヤジを目指してほしい。

1人でやってきたベテランは紀州釣りでチヌやグレ、3本の投げザオを等間隔に並べてアタリを静かに待つ。風対策でちょっとだけ投げ込んだ仕掛けに22gのキスが食いつき、足元にオキアミを刺したドウツキ仕掛けを落とし込んで30gを超えるチヌを取り込んだ人もいる。

波止で楽しい思い出/クーラーボックスいっぱい

条件が悪いといいなから誰かがどこかで他の参加者を驚かせる釣果が持ち込まれるのが大会。ツバスやスズキ、ヒラメの姿はなかったものの台風直後も手伝わているような魚が見られ、秋の訪れも早いのかと思ったりしているうちに午前10時が来て納竿のアナウンス、その後本部で審査と表彰式を終えて11時過ぎに閉会した。

